

3:1 アハブの子ヨラムは、ユダの王ヨシャファテの第十八年に、サマリアでイスラエルの王となり、十二年間、王であった。
3:2 彼は【主】の目に悪であることを行ったが、彼の父母ほどではなかった。彼は、父が作ったバアルの石の柱を取り除いた。
3:3 しかし彼は、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪に執着し、それから離れることがなかった。
3:4 さて、モアブの王メシャは羊を飼っていて、子羊十萬匹と、雄羊十萬匹分の羊毛をイスラエルの王に貢ぎ物として納めていた。
3:5 しかしアハブが死ぬと、モアブの王はイスラエルの王に背いた。
3:6 そこで、ヨラム王はその日にサマリアを出発し、すべてのイスラエル人を動員した。
3:7 そして、ユダの王ヨシャファテに人を遣わして言った。「モアブの王が私に背きました。私と一緒にモアブに戦いに行ってくれませんか。」ユダの王は言った。「行きましょう。私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。」
3:8 そして言った。「どの道を上って行きましょうか。」するとヨラムは、「エドムの荒野の道を」と答えた。
3:9 こうして、イスラエルの王は、ユダの王とエドムの王と一緒に出かけたが、七日間も回り道をしたので、陣営の者と、後について来る動物たちのための水がなくなった。
3:10 イスラエルの王は、「ああ、【主】がこの三人の王を呼び集めたのは、モアブの手に渡すためだったのだ」と言った。
3:11 ヨシャファテは言った。「ここには、

【主】のみこころを求めることができる【主】の預言者はいないのですか。」すると、イスラエルの王の家来の一人が答えた。「ここには、シャファテの子エリシャがいます。エリヤの手に水を注いだ者です。」
3:12 ヨシャファテが、「【主】のことは彼とともにあります」と言ったので、イスラエルの王と、ヨシャファテと、エドムの王は彼のところに下って行った。

ヨシャパテは先にアハブ王と同盟して戦ったときに九死に一生を得たのですが、また不信仰の者とともに釣り合わぬくびきを負うことをしてしまいました。それで水がなくなるという危機に直面してしまったのです。かつてみこころに反する行動をしてしまったなら、そのような場合は反省して悔いるだけではなく、改める必要があります。ただしヨシャパテは、ここで預言者を求めて主のみこころを聞こうとしました。主を求めるのに遅すぎることはありません。新約の時代には聖書があります。どこからでもみわざを起こすことのできる主のみことばを求めて、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

